



常磐貴子

渡辺梓

市川笑也

山口馬木也

主演
内藤剛志

監督
山田火砂子

満蒙开拓団の落日
望郷の鐘
山本慈昭

2015 11月2日 (月) ①午後2時 ②午後4時 ③午後7時

守口文化センター・エナジーホール

前売り券 1,200円 (当日1,500円、学生1,000円、障がい者800円)

後援 守口市教育委員会 (申請中)

主催 劇映画「望郷の鐘－満蒙開拓団の落日」守口上映実行委員会

(問合せ・連絡先 守口市職員労働組合 06-6992-0274)

<映画のあらすじ>

70年以上前、日本で多くの国民が中国への侵略戦争とは知らずに満蒙開拓団に入り、満州（中国東北部）へ渡りました。

この映画の主人公の山本慈昭さんは、長野県阿智村の住職で国民学校の教師でもありました。近隣の村長の懇願で、1年だけとの約束で妻と幼い二人の子どもと満州へ渡りました。敗戦間近の昭和20年5月のことでした。しかし、現地は焼け野原となっていて、まもなく、8月9日、旧ソ連軍が侵攻してきました。8月15日の敗戦も知らされず、開拓団の人々と逃げ惑ううちに妻子3人と生き別れになってしまいます。慈昭さんは2年近いシベリア拘留を経て奇跡的に日本に帰国でき、その後、中国残留孤児の肉親捜しや帰国支援に生涯を捧げました。

<鑑賞のお願い>

安倍政権は憲法違反の安全保障法を多くの国民の反対の声を無視し、強引に成立させてしまいました。立憲主義、民主主義を乱暴に踏みにじむ暴挙です。

しかし、「戦争法案」に反対した国民の統一した力はかつてなく広がり、今後の安倍政権打倒の中心的な勢力となっていくことでしょう。

こうした情勢をふまえて映画「望郷の鐘」を観る会を企画しました。

この映画は、日本の中国侵略戦争で多くの犠牲者を出した満蒙開拓団の実在した悲劇を題材にした映画です。

満蒙開拓団の話は、決して過去のこととして片づけられない『いま・現在』につながる話です。また、若者には、報道の欺瞞を見破る力にもなるでしょう。二度と戦争の道を歩まないために是非成功させたいと思います。

今年は戦後70年。節目の年です。若い世代をはじめ、戦争を体験された方々などいろいろな世代の人たちにこの映画を観ていただき、歴史の真実を学び、改めて平和の大切さを考える機会になればと願っています。

前売り券 取扱い 先

守口文化センター・エナジーホール
守口市河原町8-22

06-6992-1276

守口民主商工会（大日駅徒歩5分 北河内民主会館2階）
守口市八雲東町2丁目49-2

06-6906-0180

橋本クリニック（土居商店街）
守口市金下町2丁目12-5

06-6991-2555

守口市職員労働組合（守口市役所3号別館3階）

06-6992-0274